

第43回京都府文化賞受賞者紹介

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	北川 進 <small>きたがわ すずむ</small>	化学者	環境・資源問題に革命的な変化をもたらす材料として注目される「PCP/MOF(多孔性配位高分子)」の研究を行い、世界で初めてPCP/MOFの無数の孔に大量の気体を取り込めることを立証するなど、世界から高く評価されている。
	佐和 隆光 <small>さわ たかみつ</small>	経済学者	「計量経済学」で世界的な業績を上げ、地球温暖化対策の経済的影響を分析するなど、経済学者として実社会の課題に取り組んだ他、これからのビッグデータ時代を見据えた人材養成における先駆的業績が高く評価されている。
	高橋 英一 <small>たかはし えいいち</small>	料理人	本当の日本料理を正しく伝えたいという思いから設立した「日本料理アカデミー」では、初代会長としてフランスへ赴き現地のシェフに研修を行うなど、日本の技と心の発信に寄与。「京料理」の国の登録無形文化財登録にも尽力した。
	五代 田畑 喜八 <small>たばた きはち</small>	染色家	文政時代から続く京友禅の染色家「田畑喜八」の名跡を五代目として継承。会長を務められた京都伝統工芸士会連合会では京都の伝統工芸界の発展に寄与したとともに、自身も染物の技を追求し、伝統を守りながら流行も取り入れ、今もなお新たな挑戦を続けている。
	森村 泰昌 <small>もりむら やすまさ</small>	美術家	約40年にわたって、「私」という普遍的なテーマで、古今東西の名画、往年の名優や歴史上の人物を題材としてセルフポートレート制作に取り組み、日本を代表する美術家として国内外で高い評価を獲得している。
功労賞	大野 俊明 <small>おおの としあき</small>	日本画家	日本画の絵の具の美しさを際立たせる表現にこだわり、自然と対話して描かれた風景画は、透明感のある緑をはじめ、古典と丹念に向き合う中で見出した純粋な色彩で彩られる。また、「やまと絵」の表現技法にも関心を寄せるなど、日本画の真髄を追求し続けている。
	児玉 靖枝 <small>こだま やすえ</small>	画家	描くことで「存在の確かさ・不確かさ」や「世界へのまなざし」を掴もうとする思いから、外の世界との「接点」として具象画を描く。現在は、従来のパターンをあえて封印し、全く異なるアプローチを模索する試みを続ける他、芸術を志す多くの後進の指導にも尽力している。
	十四世 茂山 千五郎 <small>しじゅうしげやま せんごろう</small>	大蔵流狂言方	江戸初期から約400年続く大蔵流狂言の名門・茂山千五郎家を継承。ジャンルや年代を超え、皆さんに和んでもらえる狂言を目指し、それぞれ個性豊かで活動も多彩な一門の“扇の要”として、柔軟な感性で狂言の新たな可能性に挑み続けている。
	高橋 匡太 <small>たかはし きょうた</small>	美術家	まちのランドマークとなる建造物や空間に光の表現を付加する作品は、屋外における映像投影のパイオニアとして高く評価される。また、「ひかりの実」など観客とともに創造の喜びを分かち合えることができる表現を、楽しみながら模索している。
	イサオ・ナカムラ	ソロパーカッションニスト	ドイツのフライブルク国立音楽大学ソリスト科を卒業し、カールスルーエ音楽大学の教授に就任。後進の育成に力を注ぐとともに、ソリストとしての評価と名声を高め、世界各国の音楽祭に出演するなど音楽のジャンルを超えた活躍で高く評価されている。
	西野 康造 <small>にし の こうぞう</small>	彫刻家	繊細かつ複雑に組み上げた金属造形が、空気の流れを取り込んで悠然と動くスケールの大きな作品で知られる。自然現象から着想を得た独自の表現は世界からも注目され、ニューヨークの4ワールドトレードセンターのアートワークにも起用される。
	万城目 学 <small>まきめ まなぶ</small>	小説家	奇想天外な“万城目ワールド”は映画やドラマにもなり爆発的な人気を博す。時を経て街の風景は変わっても、京都ならではの空気感は世代を越えて受け止められるという体感をもとに書き上げた『八月の御所グラウンド』は令和6年に直木賞を受賞。
	宮本 貞治 <small>みやもと ていじ</small>	木工芸作家	琵琶湖の水面の波紋の美しさを木に表現するという着想から、独自の表現方法を確立。「流紋」「波紋」など、水の動きをモチーフとした作品群は、おおらかさと洗練さを併せ持つ作品として、高く評価されている。
奨励賞	石上 真由子 <small>いしがみ まゆこ</small>	ヴァイオリニスト	8歳でローマ国際音楽祭のオーディションに合格、高校2年で日本音楽コンクールで2位を獲得。現在は、エネルギーかつ表現力豊かなソリストとして全国的に活躍する、医師資格を持つ多才なヴァイオリニストとして注目を集める。
	川田 知志 <small>かわた ちし</small>	美術作家	描かれた空間と不可分な存在である壁画を、ストラップ技法により移動させ、別の空間に置くことで元の空間の記憶を内包した鑑賞物として成立させた作品を制作し、注目を集めている。素材や技法に関する研究でも精進を続け、日々新たな挑戦を続けている。
	西條 茜 <small>さいじょう あかね</small>	陶芸家・現代美術家	「身体」をめぐるテーマを核に作品を制作。近年は息を吹き込むなどパフォーマティブな要素を取り入れた作品を精力的に制作。直接触れて、身体と作品とが繋がることで生まれる新たな表現で注目されている。
	山本 雄教 <small>やまもと ゆうきょう</small>	美術作家	伝統的な日本画の技法を学ぶ一方で、従来の枠を超えた表現の可能性を探究。一円玉やブルーシート、米粒といった、身近な日常に存在するものを取り入れた独自のスタイルの作品が注目されている。